

指標名：ESPフォーキャスト調査(2009年8月)

発表日：2009年8月11日(火)

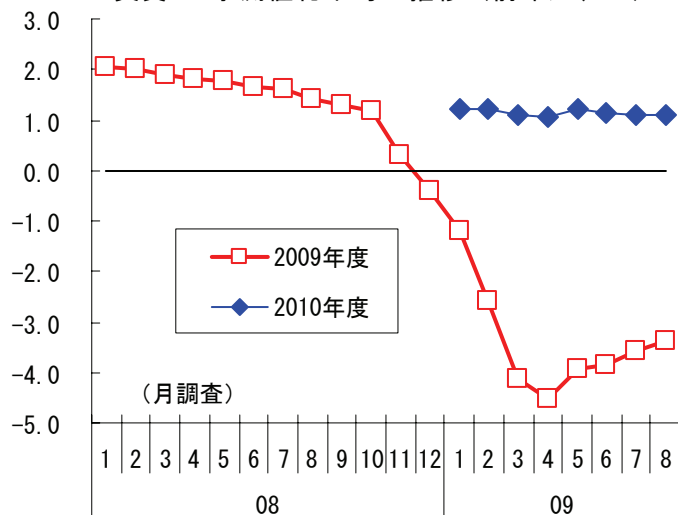
～成長率見通しは4ヶ月連続で小幅上方修正～

第一生命経済研究所 経済調査部

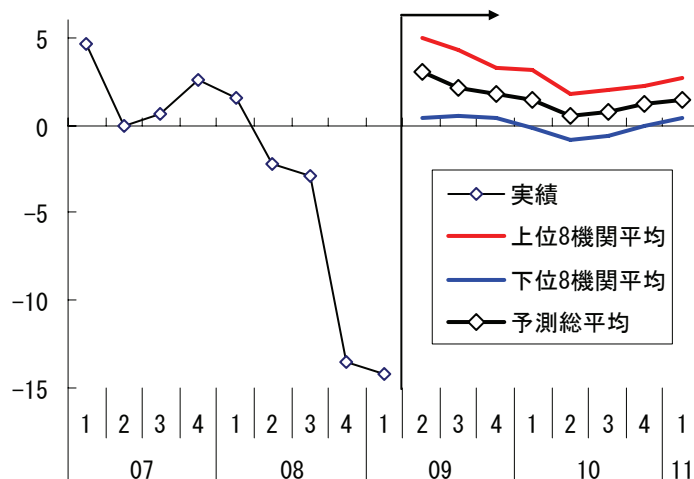
担当 主任エコノミスト 新家 義貴

TEL：03-5221-4528

実質GDP予測値総平均の推移（前年比、%）



実質GDP予測（前期比年率、8月調査、%）



（出所）経済企画協会「ESPフォーキャスト調査」より作成

○ GDP見通しは、09年度▲3.38%、10年度+1.11%がコンセンサス

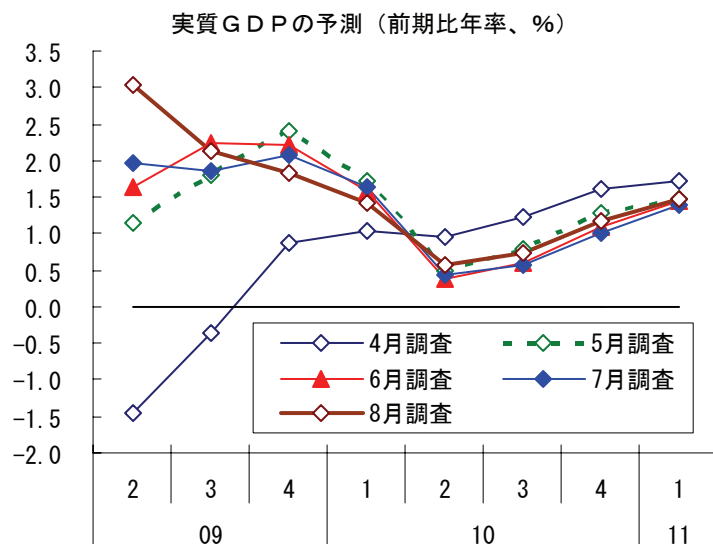
本日、経済企画協会から8月のESPフォーキャスト調査が発表された。ESPフォーキャスト調査は、40のエコノミスト・調査機関を対象にGDP成長率や消費者物価などについての予測値を集計しているものであり、月々のコンセンサスの推移が把握できる。

実質GDP成長率予測は09年度が前年比▲3.38%（7月：▲3.59%）、10年度が+1.11%（7月+1.11%）となった。09年度見通しは4ヵ月連続で上方修正されている。2009年4-6月期の成長率見通しが前期比年率+3.03%と、前月の+1.98%から上方修正された影響が大きいとみられる。4、5月に続いて6月分の経済指標も比較的良好な内容のものが多く、4-6月期のGDPは比較的高めの伸びになるとの見方はコンセンサスになっている。

09年度の成長率見通しについて項目別にみると、個人消費や公共投資など、政策効果が出ている項目や、海外での在庫調整進展に伴って増加している輸出などが前月から上方修正される一方で、設備や雇用の過剰感が強いことから、設備投資や失業率が悪化方向に修正されている。

○ 10年度前半に減速

09年7-9月以降についても、年度内は潜在成長率を若干上回る成長が見込まれるとの見方が多い。もっとも、そのまま成長率が持続的に高まっていくとの見方は少なく、10年4-6月は+0.57%、7-9月期は+0.73%と、経済対策効果の剥落から10年度前半にはゼロ%台にまで減速するとの見方がコンセンサスである。



○ 消費者物価見通しは大きな変化なし

消費者物価指数（コア）の予測値は、2009年度が▲1.40%（7月▲1.38%）、2010年度は▲0.52%（同▲0.51%）と、前月からほとんど変化がなかった。08年に生じた原油価格急騰の裏が出ることで09年7-9月期は前年比▲2.12%までマイナス幅が拡大することが見込まれている。09年10-12月期以降は、石油製品価格のマイナス寄与が縮小することからCPI全体でも下落幅が縮小するものの、08年度後半に急激に拡大した需給ギャップの存在を背景とする物価下落圧力が根強く残ることから、2010年度についてもCPIがマイナス圏で推移するとの見方が多い。

